

♪ わが家のアイドル ♪



高辺台
中村 遙貴ちゃん（1歳6カ月）
みんなを笑顔にさせてくれる遙くん
☆大好きだよ！



若松町
山元 ゲリーちゃん（1カ月）
元気いっぱいのおんぱく君になって
ね～♪大好き♡



金剛伏山台
田中 彩音ちゃん（2歳4カ月）
玲衣ちゃん（7歳）
2人の成長楽しみにしています♡

みんなの広場

寿100歳おめでとうございます！

宛先

5 8 4 - 8 5 1 1
富田林市役所
常盤町1番1号
情報公開課広報係
住所・氏名(ふりがな)・電話番号

わが家のアイドル(対象年齢は4歳未満、兄弟・姉妹と一緒に写っている写真でも可)は、写真に、メッセージ(20字程度)を添え、住所、保護者とお子さんの名前(ふりがな)、撮影時の年齢(月齢)、電話番号

を記入し、Eメール[kouhou@city.tondabaya.shi.lg.jp]または、封書で左記の宛先まで応募してください。なお、今応募された場合、掲載は約2カ月後になります。



8月18日、100歳の誕生日を迎えられた佐々木 増子さんをお訪問しました。ご自身でお買物にも行かれるそうです。



8月31日、100歳の誕生日を迎えられた鷹橋 タネさんをお訪問しました。習字や塗り絵などを楽しまれているそうです。

川柳

富柳会 池 森子選
今月の宿題「ひととき」

秀句

ひとときを遊び誰もが帰る黄泉

小金台

栗田 昌

△選評▽この世に生を受けて以来、人生とは、長いようで短かいながらも日常の喜怒哀楽を両手に握りしめながら、いつも身辺ではホップ、ステップそしてジャンプをします。それからの帰るところは…？黄泉の国。

安らぎは夫が点てる午後のお茶

藤沢台

二宮 章子

風になり君の周りをしばし吹く

高辺台

児玉 節子

ママ友と亭主の愚痴でティータイム

錦ヶ丘町

松島 清美

頑張ったこのひとときの爲にだけ

向陽台

佐々木 七朗

コーヒーに愚痴が溶けてく昼下り

不動ヶ丘町

景山 睦子

ひとときの休み欲しがるスマホ君

楠風台

正木 浩

ひとときを得たやすらぎの花と蝶

選者

吟

※11月号は「短歌」を掲載します(なお、応募は9月30日で締め切りしました)。

川柳・短歌・俳句は、それぞれ別のがきて応募してください(1人各5点まで)。市内在住の人で未発表のものに限ります。作品の漢字や氏名には必ずフリガナをつけてください。

12月号の「俳句」は10月31日(月)、29年

1月号の「川柳(宿題「時代」)は11月30

日(水)、2月号の「短歌」は12月31日(土)

日に応募(いずれも必着)してください。

宛先は上記をご覧ください。

わたしのまちの文化財

錦郡村絵図

江戸時代、錦郡村は狭山藩北条氏と旗本甲斐庄氏の領地でした。

この絵図は、明治2年（1869年）5月に作成されたもので、かつて狭山藩の大庄屋を務めていた市内の旧家から寄贈されたものです。

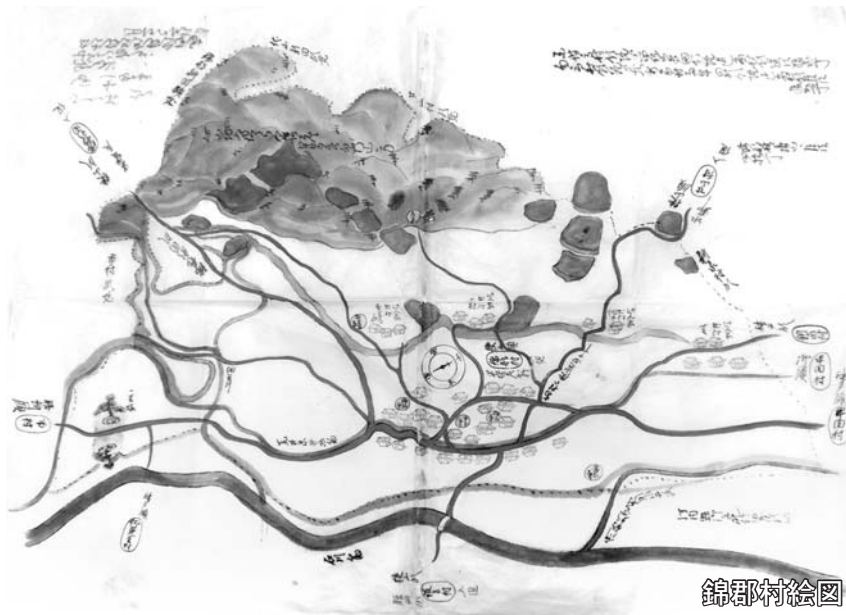
縦40・5センチ、横55・5センチの和紙に錦郡村が描かれています。

絵図の下に太めの線で横に石川が描かれ、何本もの細く曲がりくねった線で道や水路が描かれ、絵図の左下には道の両側に錦織一里塚が描かれています。

左上にかけて塗りつぶされているのは現在の府営錦織公園のあたりで、濃く塗りつぶされた池が点在しています。

また集落の他、福龍寺、安樂寺、常楽寺、若宮など当時の錦郡村にあった寺社も描かれています。

現在の地図と見比べると、昔と今の錦郡の変化が見えてきま



錦郡村絵図

す。実物は川や水路、池は青色、道は赤色、山は緑色、家は黄色というふうには鮮やかな色彩で分かります。

この絵図は、今年4月に観光交流施設きらめきファクトリーで開催した企画展「とんだばや

しを通る街道と…」にパネル展示していました。

今回、残念ながら展示を見逃した人にもご覧いただけるよう今後も展示を企画していきますので、次回の展示の際にはぜひご覧ください。

文化財課（内線507）

わがまちこのひと

有限責任事業組合

富田林家利活用促進機構

「町家むすび」で地域に新たな賑わいを

（LLPまちかつ）

今回は、28年5月26日に「第5回まちづくり法人国土交通大臣賞」を受賞された、「有限責任事業組合 富田林家利活用促進機構（LLPまちかつ）」を紹介します。

21年9月に設立したLLPまちかつは「アートと工房のまちづくり」をテーマに、歴史ある佇まいを残す富田林寺内町周辺で、「町家むすび」活動を通じて空き家となっている町家を利活用し、地域の活性化に取り組んでおられます。

「町家むすび」とは、現在使用されていない建物の有効活用を希望する持ち主に、この町でお店を開いてみたいという入居希望者を紹介する活動で、町家を介して持ち主と借り手のご縁を結びたいとの思いから名付けられたものです。

代表を務める佐藤 康平さんにLLPまちかつを立ち上げた経緯を伺うと、「寺内町でも、かねてより少子高齢化が進み空き家が増加しています。また、建物の老朽化により歴史的建築物が失われ、まちの衰退や景観の悪化が地区全体で問題となっていました。当初は、イベントなどの催しを企画し、まちの活性化に取り組んでいましたが、イベントには集客力はあるが一過性のもの。本来のまちの賑わい

とは何か？」と考えたとき、当時60件ほどあった空き家を何とか有効活用できないかと思いましたが「話さずにはおられません」と話されました。



LLPまちかつ代表の佐藤 康平さん

「町家むすび」では持ち主と借り手双方のニーズを十分理解した上で物件を紹介しているため、成立までに2年を有する事案もあつたそうです。寺内町の景観や雰囲気は保たれるように、歴史的な建物の価値を失わないようにと、借り手に求める条件も厳しいですが、これまでにギャラリィや雑貨店、飲食店、工房、宿泊施設など約30件の誘致を成立させています。

イベントによる賑わいと、町家の利活用による賑わい、「訪れてよし、住んでよしのまち」をめざし、今後は大規模な町家の利活用にも積極的に取り組むたいとおっしゃっていました。

さらなるまちの活性化に情熱を注ぐ佐藤さんからは、寺内町を愛する熱い思いが感じられました。徐々に活気を取り戻しつつある寺内町、散策するもよし、お店を巡るのもよし。行楽のシーズンに一度訪れてみてはいかがでしょう。